

大雨による出水・氾濫への備え

■大雨による出水・氾濫の種類

激しい大雨が続くと雨水が下水道や水路などから街中であふれ出した時に発生する「雨水出水（内水浸水）」や、その雨水が川に流れ、川の水位が上がり堤防を壊したり乗り越えたりして発生する「洪水（外水浸水）」により被害が発生することがあります。

雨水出水（内水浸水）とは

大雨により、雨水が街中であふれ出した時に発生する氾濫。

洪水（外水浸水）とは

大雨により、河川の堤防が壊れたり、堤防から水が溢れたりして発生する氾濫。



図 1. 雨水出水（内水浸水）と洪水（外水浸水）のイメージ図

■大雨による浸水（雨水出水）が想定される区域

近年、全国各地で局地的な大雨によって甚大な浸水被害が発生しています。堺市においても令和 4 年 9 月 2 日に時間雨量 99 mm の降雨を観測し、これまでに堺市内で降った最大の降雨の記録【**既往最大降雨**】であった平成 20 年 9 月 5 日の時間雨量 93 mm を更新しました。この降雨により堺市内で住宅の床上浸水や道路冠水などの被害も発生しました。また、近年の気候変動の影響によって、これまでに経験したことのない大雨が堺市内でいつ降ってもおかしくない状況を踏まえ、過去の大雨の記録などから、現時点で想定しうる最大規模の降雨【**想定最大規模降雨**】（時間雨量 147 mm）による浸水の可能性について予測しました。

これらの結果をもとに、大雨による浸水（雨水出水）が想定される区域を示した図（内水による浸水想定区域図）を 2 種類（既往最大降雨・想定最大規模降雨）作成しましたので、皆様がお住まいの地域などの浸水の危険性を事前にご確認いただき、いざというときに適切な行動、自分の大切な家族の命や生活を守る行動がとれるよう備えてください。



図 2. 堺市における大雨時の状況



図 3. 1 時間降雨量 50mm 以上の年間発生回数

想定最大規模降雨とは

過去の大雨の降雨量データ（昭和 30 年代前半以降の降雨を対象）をもとに、地域ごとの最大降雨量を参考に算出した時間雨量 147 mmを採用しています。1000 年に 1 回程度の確率で発生するとされる降雨です。

■市民の皆様をお願いしたい事項

台風などによる大雨は、事前に予測することが可能と考えられますが、局地的に発生する大雨は、発生する場所や時間を予測することが困難です。

そのため、いざというときに適切な行動をとり、自分の大切な家族の命や生活を守るため、日ごろからの備えが重要です。

◆事前準備

○浸水リスクを確認しましょう

内水による浸水想定区域図で、ご自宅や職場、学校などの浸水の危険性をチェックしておきましょう。

また気象庁が発表する気象情報や堺市からの情報を確認しましょう。



○避難方法を考えておきましょう

雨水出水（内水浸水）は、浸水が発生しても建物の上階など浸水しない場所に避難することで安全を確保出来ます。

降雨がひどくない時など安全に避難することが可能な場合には、より安全を確保するために浸水が想定される区域の外や高い建物に避難するなど様々な避難方法も考えておきましょう。



○側溝や雨水ますの清掃にご協力ください

道路上の雨水が流れる「側溝」や「雨水ます」がゴミや落ち葉で詰まると、下水管に流れず浸水の原因になります。日頃から、家の前などの清掃にご協力をお願いします



■大雨が来たとき

突然の大雨や雨水出水（内水浸水）が発生した時は、落ち着いて行動することが第一歩です。

次のポイントを参考に、状況に応じた安全な行動をお願いします。

○気象情報をこまめにチェック 気象予報は都度変化するため、テレビやラジオなどで雨の強さや影響する場所などの情報をこまめにチェックしましょう。	
○ど^う土嚢^{どう}などを活用して屋内への浸水を防ぐ ドアや窓のカギを閉め、ドアの隙間や車庫の前など雨水が入りやすいと思われる場所に土嚢などを設置することで浸水を防ぐことができます。ブルーシートとプランターやペットボトルなどで簡単に浸水を防ぐこともできます。	
○地下道（アンダーパス）やマンホール、側溝などに注意 アンダーパスは浸水しやすく運転や通行には注意が必要です。 道路が冠水している状態で外を歩いて避難する時は、見た目では深さが分かりにくく蓋が外れたマンホールや側溝、用水路などに落ちる危険があります。そのような場所をやむを得ず歩く場合には特に注意してください。	
○外が危険な場合は、無理に外へ出ない 外への避難が危険な場合は、建物の2階以上など、できるだけ高い場所へ避難しましょう。 雨水出水（内水浸水）では、道路が浸水していることがあり、そのような場合には外に出る方がかえって危険な場合があります。	